

Citation : Esposito M, Grusovin MG, Rees J, Karasoulos D, Felice P, Alissa R, Worthington HV, Coulthard P. Interventions for replacing missing teeth: augmentation procedures of the maxillary sinus. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 3. Art. No.: CD008397. DOI: 10.1002/14651858.CD008397
CRG名 : Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月 : 7 January 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 3

背景 : 口腔インプラントを用いて上顎臼歯部の機能回復を行う場合、骨量が不十分であることがよくある。この部位の骨量は、上顎洞の存在と歯槽骨高径の減少により制限されているからである。上顎洞底挙上術とは、自家骨や市販の生体材料それぞれ、もしくはその混合物で上顎洞腔内の骨造成を行うものである。

目的 : 上顎洞内の骨造成術は必要なのかどうか、必要とすればどのような時で、インプラント支持の補綴装置による機能回復を行う患者にとってどの手法が最も効果的なのかを検証すること。

検索戦略 : 本レビューでは、2010年1月7日に、Cochrane Oral Health Group's Trials Register、CENTRAL、MEDLINE、EMBASEを検索した。いくつかの歯科雑誌のハンドサーチを行った。総説の参考文献を調べ、個人的な文献も検索した。55社以上のインプラント製造業者にもコンタクトを取った。

選択基準 : 異なる術式と骨補填材を用いて上顎洞底挙上術を行ったうえでインプラントによる機能回復を行い、少なくとも支台装置の装着までの間のインプラントの成功と失敗をアウトカムとしたランダム化比較臨床試験(RCT)。

データ収集と分析 : 適切な研究の選抜と、試験とデータ抽出の手法的な質の評価は2人のレビューアが別々に行った。情報が欠落している場合には、著者とコンタクトを取った。結果は連続アウトカムの平均差を使用したランダム効果モデルと、95%信頼区間(CI)を使用した二項対立アウトカムのオッズ比として現した。解析の統計学的単位は患者とした。

主な結果 : 29のRCTのうち、10個が包含基準に合致していた。1つのRCTでは、残存骨高径が4-6ミリの骨に対し、上顎洞底挙上術を用いずに長径5ミリで直径6ミリのインプラントを用いた15人の患者を評価した。他の9つの試験では235人の患者で、異なる上顎洞底挙上術を比較した。そのうち4つの試験では、114人の患者で、多血小板血漿(platelet-rich plasma, PRP)の有効性が評価された。評価された術式が多岐に渡るため、PRP使用によるインプラントの失敗(2つの試験によるもの)と併発症(3つの試験によるもの)に関してのみメタアナリシスが可能であった。統計学的有意差は認められなかった。

レビューアの結論 : 結論はごく限られた数で短い追跡期間の試験に基づいて導かれたものであるため、バイアスの影響が強く出ている危険性があると判断している。したがって、この結論は予備的なものであり、厳重な注意を払って解釈する必要がある。どのような時に上顎洞底挙上術が必要なのかは未だ明らかではない。残存骨高径が4-6ミリの骨で長径5ミリの短いインプラントは問題なく負荷をかけることができるが、その長期的な予後は不明である。インプラント支持の補綴装置による機能回復を行うに足る骨の新生という観点では、残存骨高径が1-5ミリの場合に骨移植を行わずに上顎洞粘膜を挙上することで十分な可能性がある。代用骨は自家骨の代わりに問題なく使用できる可能性がある。残存骨高径が3-6ミリの場合、側方から開窓して骨造成を行った後に少なくとも長径10ミリのインプラントを埋入するよりも、歯槽頂アプローチで上顎洞底粘膜を挙上し、8ミリの長径のインプラントを埋入する方が、併発症は少ないかもしれない。自家骨や代用骨を用いた上顎洞底挙上術において、PRPを用いることで臨床的なアウトカムが良好になるという明確なエビデンスはない。

(翻訳 園山 亘・監訳 窪木拓男; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年12月16日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳の元を受け公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点
がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の
日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英
語版)の内容をご確認ください。